

## 第一講 動詞(1)

### 活用形

#### 未然形になる時

- ①下に「る・らる・す・さす・しむ・ず・じ・まほし・む・むず・まし」等の助動詞がつく。
- ②未完成の「未」なので、否定・打ち消しと相性が良い。
- ③「ば」という接続助詞が「  
」だったら、上は未然形。

#### 連用形になる時

- ①下に「用言」( 詞・ 詞・ 詞)がつく。
- ②下に「  
」という助詞がつく。
- ③下に「き・けり・つ・ぬ・たり・けむ・たし」という助動詞がつく。

#### 終止形になる時

- ① 文の終わりに来る(ただし、係結びの法則が発動するときは、注意!)
- ② 「べし」とか「らむ(現在推量とか)」などの、終止形に接続する助動詞が下に来たら、文の途中でも終止形となる。
- ③ 「と」「とて」「。の上は終止形。

#### 連体形になる時

- ①下に「  
言」(名詞・代名詞)がつく。  
**注意!** 「こと」「とき」「頃」なども名詞なので、「  
言」の一つです。
- ② 「なり」という( ) ( )の助動詞は連体形につく。
- ③ 文中に「  
」「  
」「  
」「  
」「  
」があると、係り結びの法則が発動して、文末は

連体形となる。

#### 已然形になる時

- ① 已は「すでに」とも読む。つまり「すでにその状態になった」事を表す。
- ② 「ど」「ども」(逆説確定条件・逆説恒常条件)という意味の助詞が下に来ると、已然形。
- ③ 文中に「  
」がある時、係り結びの法則が発動して、文末は已然形。
- ④ 「ば」という接続助詞が「  
」だったら、上は已然形。

#### 命令形になる時

- ① 文の終わりに来る
- ② 命令文の形になる。

### 活用の種類

- 四段活用……未然形の母音が a となる(「ず」に接続させる)。  
上二段活用……未然形の母音が i となる(「ず」に接続させる)。  
下二段活用……未然形の母音が e となる(「ず」に接続させる)。  
上一段活用……どの活用形でも母音が i。次のものだけ覚えよう。  
干る・射る・鏝る・着る・煮る・似る・見る・居る・率る

下一段活用……どの活用形でも母音が e。「蹴る」だけ。

カ行変格活用……「来」だけ。(「来る」はラ行四段動詞)

サ行変格活用……①サ行下二段活用(せ・**せ**・す・する・すれ・せよ)と似ているが、  
連用形が異なる(せ・**し**・す・する・すれ・せよ)

第十三講 助動詞 10 「なり」「めり」

なり

意味

(訳..) ( )

接続

の 形 形  
の下につく。

活用

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
			なり			

※ポイント

- ① 「伝聞」は、噂・誰かの話・故事成語等の後に「なり」がつく場合が多い。
- ② 「推定」は、音・声・気配等の後に「なり」が着いて、自らが判断する場合が多い。
- ③ 「推定」と「推量」の違い↓ ( )があるか無いか。
- ④ 「なり」⇓音(ね) +あり⇓なり(聴覚推定)  
「めり」⇓見(み) &目(め) +あり⇓めり(視覚推定)

例題 次の傍線部を文法的に説明せよ。

- ① 物といふものあんなり。 答え 「あん」⇓ラ変動詞「あり」の連体形の撥音便  
+「なり」⇓伝聞推定「なり」の終止形。
- ② 人をして呼ばすれど、答えさなり。  
答え 「答え」⇓ハ行下二段動詞未然形  
+「さ」⇓打消の助動詞の連体形「ざる」の撥音便無表記型の濁点無表記型  
+「なり」⇓伝聞推定の助動詞の終止形

問一 次の各文の「なり」を断定か伝聞推定かに識別せよ。

- ① 月の都の人なり。
- ② 人々あまた声して来なり。
- ③ 継母なりし人は、宮仕へせしが下りしなれば、……
- ④ 男もすなる日記といふものを、女もしてみむとするなり。

問一 左の表を完成させよ。

⑪	来 行く	⑤ ④	③	②	①	与 与ふ	通常語	尊敬語〔訳〕	謙讓語〔訳〕	丁寧語〔訳〕
	⑩ ⑨	おはす おはします	おぼ 思す 思し召す	仰す のたまふ		たまふ〔くださる〕		奉る〔さしあげる〕		
	〔 h 〕	〔 e 〕	〔 d 〕	〔 b 〕				申す 聞こゆ	〔 c 〕	
	まがる まがる	参る まうづ	侍り さぶらふ さぶらふ	存ず〔お思い申しあげる〕				たまはる	〔 a 〕	
	〔 j 〕	〔 i 〕	〔 f 〕							
			⑧ ⑦ ⑥							〔 g 〕

す	⑮	飲 食 む ふ	⑫
遊ばす	大殿ごもる	⑭ ⑬	聞こす 聞こし召す
	〔 n 〕	〔 m 〕	〔 k 〕
つかうまつる			承る
〔 o・p 〕			〔 l 〕

本動詞……動作・存在を示せる動詞

補助動詞……①動作・存在を示さない

②本動詞や他の語の下について、特定の意味を添える

③品詞としてはあくまで動詞なので、活用形・活用の種類が存在する

## 第二十二講 「ぬ」「ね」の識別

連用形	未然形	接続
な	ぬ <small>ぢ</small> ず	未然形
に	ぬ <small>ぢ</small> ず	連用形
ぬ	ぬ <small>ぢ</small> ず	終止形
ぬる	ぬ <small>ぢ</small> ぬ	連体形
ぬれ	ぬ <small>ぢ</small> ね	已然形
ね	ぬ <small>ぢ</small> ぬ <small>ぢ</small>	命令形
完了・強意	打消	意味

### ※ポイント

完了「ぬ」終止形の場合↑上が連用形↓「ぬ」自体が終止形  
打消「ず」連体形の場合↑上が未然形↓「ず」自体が連体形

問一 次の各文中の「ぬ」「ね」の意味を答えよ。

- ① おぼしき事言はぬは腹ふくるるわざ。
- ② 風吹きぬべし。
- ③ 人、木石にあらねば、……
- ④ はや船出して、この浦を去りね。

問二 次の各文の空欄  に ( ) 内の語を正しく活用させて入れよ。

- ① 風波  (やむ) ねば、なほ同じ所にあり。
- ② 梅の花、色こそ  (見ゆ) ね、香やは隠るる
- ③ 黒き雲にはかに  (出で来ぬ) ぬ。
- ④ 日数の早く過ぐるほどぞ、ものにも  (似る) ぬ。